

豊かな心と向上心を持ち、
学んだことを活かして行動する児童の育成

【目指す学校像】

「誰もが自慢できる学校」

- ・(児童) 毎日行きたくなる学校
- ・(保護者) 子どもを通わせたい学校
- ・(教職員) 続けて勤めたい学校

【目指す子ども像】

「仲間とともに、すすんで学び、自ら将来を切り拓く大杉っ子」

～3つの力と3つの心を育てる～

3つの力 ・すすんで学び、じっくり考える力
・学んだことを表現できる力
・目標に向かって、最後までやり抜く力

3つの心 ・物事に正面から向き合い、感動できる心
・自他を大切にする心
・目標に向かって、挑戦する心

【目指す教職員像】

「熱意・意欲にあふれ、子どもとともに学ぶ教職員」

- ・子どもに教育的愛情を持ち、より良い関係を築く
- ・保護者と連携・協力し、信頼関係を築く
- ・常に課題意識を持ち、自己研鑽に努め、実践力につける
- ・教職員間で情報を共有化し、協働する
- ・自然、人、文化など地域と積極的に関わる

平成29年度 京北第三小学校 学校教育の重点

少人数小規模のメリットを活かした教育活動を実践する。

➡ 一人一人を大切にしながら、最後までやりきらせる。

○学習できる集団を作る。(学習の構え、学級経営)

- ・規範意識（ルール、けじめ、マナー、時間の管理、協調性など）の向上を図る。
 - ・人権意識（あいさつ、言葉づかい、態度、服装など）の向上を図る。
- ※どちらも教師が見本を見せる。

○授業改善を図る。(教師の意図的な仕掛け・工夫による児童の主体的な学習)

- ・教師が授業の中で、発問等を意図的に仕掛けることにより、児童の興味関心を引き出し、児童が主体的に学習する授業を展開する。（アクティブ・ラーニングの視点）
- ・自己肯定感が育つ、達成感がある、わかる喜びのある授業を構築する。
(教師主体の教え込み型授業からの脱却)
- ・焦らず、子どもの発言・活動・意欲を待つ。

○学級の中で、困りを抱えている子に対する丁寧な見取りと的確な支援をする。

- ・「できない」「わからない」という子は、その子が何に困っているのか、その原因を追究し、できるようになるための手立てを打つ。
- ・一つの方法でダメなら、次の方法を考える。
- ・個別の指導計画を作成し、その子に応じた支援を行う。

○小中一貫教育校を見すえたカリキュラム・マネジメントを検討し、推進する。

- ・3年後に統合することを踏まえ、4小中学校及び3小学校との4小中合同授業、3小学校合同授業を計画し、実施する。
- ・できるかぎり日々の教育活動に沿った形で、子ども・教職員に負担感が少なくなるよう計画する。
- ・一方で、行事の精選を図る。教育効果の少ない取組は、勇気をもってやめる。
「今までやってきたから」ということは、理由にならない。
- ・地域力（地域の物的、人的資源）を活用するために、教科学習・総合的な学習のカリキュラムの見直しを図る。

○道徳の教科化に向けての取組を進める。

- ・道徳の全体計画を見直す。（項目内容等が本校の実態に合っているか）
- ・評価を行うための手立て（道徳ノートなど）の検討と評価を試験的に実施する。

○英語・英語活動の時数を増やす。

- ・ 1, 2年生でイングリッシュシャワー（歌, あいさつなど）を行う。
- ・ 3, 4年生で12～16時間授業を実施する。
- ・ 5年生で35～55時間を実施する。
- ・ 6年生では, 35時間に加えて, できるかぎり+ α の時間を取り。
- ・ 火曜7校時を設定することにより, 実施可能とする。

以上